

平成29年度 大濠中学校・高等学校の教育目標

平成29年5月9日 目標設定 平成30年2月19日 自己評価

自己評価

【建学の精神】
本校は福岡外事専門学校附属大濠中学校として、1948(昭和23)年に設立された。敗戦直後のこと、国土は荒廃し、思想や価値観も混迷をきわめていた。日本の復興には有為の青年を教育する私立学校が必要だとして準備が進められた。
旧神社庁の古い建物を借用し、補修に補修を重ねて大濠中学校が開校に漕ぎ着けた。初代校長に就任した井口末吉校長は、241名の新入生に向かって「人材の育成は校舎にあらず教師にあり。道徳教育を根幹として教育を断行する」と宣言した。
【教育方針(高等学校)】
1 日本人としての自覚と誇りを持たせる。
2 道徳教育を通じて人間性を高める。
3 広く自主活動を促し、能力を啓発する。
【教育方針(中学校)】
1 国際的な視野を養い、適正な判断力と自主性を発揮する。
2 高い知性と豊かな感性を培い、自由で伸び伸びとした活動をする。
3 たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する。
【校訓】
－ 明朗闊達
－ 自重敬他
－ 研学錬体
－ 進取創業

【平成29年度の育成目標】
1 自主活動や学級活動を通じて、自尊意識を基に他者の価値、社会との繋がりを見つめさせる。
2 教科の学びを起点として、自らの興味や関心を広げ、読書や知的体験へと向かう意欲を高める。
3 あらゆる場面で意見の表明や討論の機会を設け、自己の視点や他者の意見を聞く力を養成する。
【重点評価項目】
1 授業改善(アクティブラーニングの促進)
2 進路指導・キャリア教育の研究・実践
3 生活指導
4 学級経営
5 学校行事・生徒会活動
6 部活動(クラブ活動)
7 その他の校務分掌(具体的に)

教科			
国語	全体目標	○古典を通して日本人として伝統文化、価値観を理解し、現代文を学ぶことで現代が抱える問題と今後に関して考察する力を養育する。 ○日本語を通して思考力・想像力を伸ばし、相手を理解し、異文化を理解できる力を養育する。 ○自らの思いを伝えるための言語としての日本語を身に付け、周囲とコミュニケーションの取れる言語感覚を養育する。	B
	中学校 学年目標	(中学1年)現代の日本語の表現と読解力を習得させる。 (中学2年)現代の日本語の表現と読解力を習得させながら、伝統的な表現法に触れる。 (中学3年)現代の日本語の表現力と読解力を錬磨させ、古典を含めた体系的な言語としての日本語を習得させる。	A
	高等学校 学年目標	(高校1年)現代文、古文、漢文の読解のための基礎的な知識を習得させる。 (高校2年)現代文、古文、漢文の読解のための知識を確認し、読解のための技術を習得させる。 (高校3年)コミュニケーション能力としての一助となる読解力の習得と高度な理解を伴う技術を習得させる。	B
数学	進学コース・スーパー進学コース		
	全体目標	各分野での基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的に考察し表現する能力を伸ばし・養うとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。	B
	高校1年	予習・授業・復習の基本的な学習スタイルを確立させる。また、各コースごと計画的な課題を用いて、全員が基礎学力を身につけられるように導く。 補習授業が始まってからの授業との関連や学習方法を指導する。	B
	高校2年	文系:数学Ⅱ・Bの基礎的な学習内容を全員が身につけられるように、各コースごと計画的な課題を用いて理解度の把握や演習量の確保を図る。 理系:授業進度を上げ、出来るだけ早く数学Ⅲの内容に取り組めるようにする。 また、各コースごと計画的な課題を用いて基礎学力の定着と、演習量の確保を図るとともに自学の意識を高めていく。	B
	高校3年	文系:演習をこなすことにより応用力をつけ、入試に向けての実力をつけさせる。 理系:新課程数学Ⅲの授業進度を上げ、演習時間をつくることにより、入試に向けての実力をつけさせる。	B
	中高一貫コース		
	全体目標	各分野での基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的に考察し表現する能力を伸ばし・養うとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。	B
	中学1、2年	中学の内容を把握させるとともに、理解し問題が解けるように指導していく。 高校数学へのステップとして予習復習・ノートの書き方等、丁寧に指導する。 数学嫌いを作らず、問題を読み・理解し・解法することが楽しくなるような生徒を育てる。	A
	中学3年	高校の授業の先取りで数学Ⅰ・Aを履修するので、しっかり理解させ、基礎力の定着をさせる。 また、演習をすることによって応用力をしっかりと身につけさせる。	A
	高校1年	予習・授業・復習の基本的な学習スタイルを確立させる。また、各コースごと計画的な課題を用いて、全員が基礎学力を身につけられるように導く。 補習授業が始まってからの授業との関連や学習方法を指導する。	B
	高校2年	文系:入試対策の演習へ入るので、各分野の確認を行い、基礎力の定着をさせる。 理系:数学Ⅲの内容の定着を図り、入試を意識した演習を中心として実践力をつける。	B
	高校3年	文系:入試に向けて実践演習を増やし、受験に備える。 理系:数学Ⅰ・A、Ⅱ・B、Ⅲの更なる定着を図るとともに、受験数学の記述力をつけるための実践演習を増やす。	B
英語	全体目標	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの言語活動を通して情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	B
	中学 学年目標	中学1年:英語学習への積極的な取り組み姿勢を養い、語彙・文法・音声面の基礎的力を全生徒に身につけさせ、2年次における発展的学習に向けての土台を作る。 中学2年:中1で学んだ知識の定着と深化を図り、読む・書く・聞く・話す力にさらに磨きをかけ、コミュニケーション力の育成につなげていく。 中学3年:高校基礎レベルの語彙力・文法力・読解力・作文力の定着と身近なことだけでなく社会問題に関しても自分の意見を表現する力を養う。	B
	高校 学年目標	高校1年:予習・授業・復習のサイクルと語彙テスト・文法テストを通して、英検準2級レベル程度の読解力・表現力をを目指す。 高校2年:大学入試に対応できる語彙力・文法力・読解力・作文力を養成し、英検2級レベル程度の英語力で自分の考えを発表・表現できるようになることを目指す。 高校3年:入試演習問題を多く取り入れ実践形式の授業を展開し、論理的思考力を重視する入試に対応できる実力をつける。	B
	評価指標	A. 平成29年度評価項目	B. 評価項目達成のための具体策(実施内容・方法など)
		1. 語彙・文法の学習を通して、基礎的な学力を向上させる。 2. 「読むこと」の能力を伸ばす。 3. 「聞き取る」能力を伸ばす。 4. 「書くこと」の能力を伸ばす。 5. 「話すこと」の能力を伸ばす。 6. 論理的思考力や表現力を伸ばす。	1. ①課題や文法問題集などの学習を通じ、基礎力を定着させる。 ②英単語テストなどを実施し動機付けをはかる。 2. 多様な音読活動を取り入れ授業方法を工夫する。 3. リスニング教材等を用い(中学ではALTを活用し)、英語の音に慣れさせる。 4. テーマを与え、英語で書かせる。 5. 課題英文を暗記させ言わせる。 6. 定期考査や実力考査において論理的思考力を問う問題を出題するよう努力する。

理科 中学	全体目標	理科の学習を通して、次のような人格の育成を目指す。 ①自然科学分野への興味関心を持ち、生命尊重の態度を有する人格。 ②科学的な物事の捉え方や価値観を身につけることに積極的に取り組む態度を有する人格。	
	指導目標	①生徒一人一人にとって魅力ある授業展開を目指す。 ○教材研究の徹底 ○生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選 ○進度表に基づいた進度確保 ○クラス担任との情報交換に基づいた深い生徒理解 ○生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導 ②できるだけ多くの「モノ」に触れさせる。 ○学習効果を十分に吟味した生徒実験・演示実験の実施 ○個々の学習内容と日常生活との関わりを意識した教科指導の実践 ○実験器具等の基本的な扱い方や操作の習得の徹底 ○実験時における安全管理・危機管理指導の徹底 ③高等学校での学習を見据えた指導を行う ○中学校理科から高等学校理科、大学入試へのつながりをイメージさせる指導 ○実社会で起こっている諸事象に関する考察の指導	B
理科 高校	全体目標	コースに応じた選択科目（物理・化学・生物・地学）の学習を通して、次のような人格の育成を目指す。 ①自然科学分野への畏敬の念と生命尊重の態度を有する人格 ②様々な自然・科学現象の理解に積極的に取り組む態度を有する人格 ③自然科学的な物事の捉え方や価値観に基づいた諸問題の解決や社会発展を目指す態度を有する人格	
	指導目標	①生徒一人一人にとって「わかりやすく、魅力ある」授業展開を目指す。 ○教材研究の徹底 ○生徒の理解度に合わせた演習、課題内容の厳選 ○進度表に基づいた進度確保 ○クラス担任との情報交換に基づいた深い生徒理解 ○生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導 ○学習効果と進度確保を十分に考慮した生徒実験・演示実験の実施 ○実験器具等の基本操作習得や実験時における安全管理・危機管理指導の徹底 ②進路実現に繋がる生徒一人一人の意識向上を目指す。 ○模擬試験等の事前指導や事後指導、大学入試の過去問題を使つての発展的な学習指導 ○個々の学習内容と日常生活や最先端の研究との関わりを意識した教科指導の実践 ○将来の職業選択を意識した実社会で起こっている諸事象に関する考察を促進 ○生徒の進路希望の把握と個別指導への反映	B
地歴 公民	全体の教科目標	1. 地理的認識や歴史的認識を身につけさせ、地理的思考力や歴史的思考力を培い、我が国の国土や歴史を理解するとともに国際的な視野をもった人格を育成する。 2. 人間としてのあり方や生き方、政治・経済の基本的な見方や考え方を身につけさせ、社会全体の福祉の向上に寄与できる人格を育成する。	
	中学の目標	1. 地理分野・歴史分野・公民分野の基本的知識を身につけさせ、社会に対する興味・関心を持たせる。 2. 資料を活用する学習を重視するとともに、課題を解決する能力を培い、主体的な学習を促す。	
	高校の目標	1. 地理分野・歴史分野・公民分野の基本的知識を身につけさせ、受験に対する対応力を高める。 2. 主体的な学習に取り組めるように、地理的思考力、歴史的思考力、政治・経済の基本的な考え方を培う。	
	具体的な取り組み	1. アクティブ・ラーニングや発問の工夫などを通じて、「考えさせる授業」を行うなど授業改善への努力を続ける。 2. 定期考査や実力考査などで、読解力・思考力・判断力が求められるような問題を作成する。 3. 本校生徒にどのような力が求められるのかを考えて、中学入試問題、高校入試問題を作成する。	C B B
保健 体育	体育実技	（目標） 中学…基本的な生活習慣を身につけさせると同時に、集団生活の基礎を指導する。年間カリキュラムに沿って、基礎的な身体活動を中心に運動の楽しさや喜びを味わい、たくましい体と思いやりの心を育み、お互いの人格を尊重する。 高校…心と体を一体としてとらえ、スポーツについての専門的な理解を深め、個性豊かな潤いある心身共に健康な人格を育成する。 （具体的な取り組み） 中学、高校を通じ新体力テスト（中学）、運動能力テスト（高校）を実施する。さらにその結果を体力測定シートを用いて分析し、発達段階に応じた指導を行う。また、安全面については十分に配慮する。	（中学） B （高校） B
	保健	（目標） 中学…心身の健康の保持増進の実践力を育成するため、単なる暗記ではなく高い知性と豊かな感性を培い、男女が共に協力しながら適切な意思決定や行動選択及び環境づくりを行う。 高校…授業を通して個人生活及び社会生活に関する事項を正しく理解し、男女が共に生活する社会の意義を見つめ、適切な意思決定や行動選択を行う。 （具体的な取り組み） 中学においては、板書等を各自のノートに記入させ毎学期の期末考査前には全員提出させる。高校については、保健ノートを単元ごとに整理させ、毎学期の期末考査前には全員提出させる。	
芸術	中学目標	音楽…音楽活動の体験を通して、興味・関心を持たせ、授業への意欲を高めさせ、音楽の深さや素晴らしさを生徒が理解できるようにする。 美術…制作のための技術を身に付けさせ、表現方法を工夫し、独創的な作品作りを目指させる。 又、様々な美術作品を鑑賞する事で、心豊かに生きる喜びを感じさせる。	B
	高校目標	音楽科、美術科、書道科それぞれに、生徒に積極的に取り組ませることで、芸術が人の生活に密着した奥深いものであり、大切なものである事を実感させる授業を展開したい。よって目標は次の通りである。 1. 教科書の課題に取り組ませるため、必要となる技術・技巧を身につけさせ、さらに表現力や芸術性、鑑賞力を深めさせたい。 2. 鑑賞は不可欠である。作業に伴い効果的に鑑賞の機会を与えたい。 3. 作品制作や演奏に真面目に取り組ませることで、芸術への理解を一層深めさせたい。同時に芸術に触れることで豊かな心や喜び、本物への尊敬の心が生まれ、それぞれの人生にとってかけがえのないものになって欲しいと考える。	B
技術 家庭	目標	男女共生社会を構築する上でキイとなる教科であり、人の一生という射程の中で、生活の様々な領域を対象とする。このような教科の特性に基づき、「キャリア教育」の視点を重視し、知育偏重に陥ることなく総合的な視野と社会に対して実践的に働きかける姿勢・資質を育むことを目的に、家庭・技術それぞれに次の目標掲げる。	
	家庭	1. 人の一生と消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 2. 学習した知識や技能を生かし、家族や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	B
	技術	木材加工実習や電気工作等の実践的なものづくり体験を通して、生活に必要な知識及び技術の習得を目指すとともに、技術を適切に評価し活用する能力を育てる。	B
情報	目標	1. 情報化に主体的に対応できる能力、及び情報社会に積極的に参画する態度を育成する。 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集・処理・表現する基礎的な知識・技能の習得・定着を図る。 3. 情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報セキュリティや個人の責任など情報モラルについて主体的に判断できる態度・資質を養成する。	B

学年			
中学	中学目標	①粘り強く、生徒に寄り添い、生徒と繋がり、レポート作りを通して信頼関係を構築し、中学生らしく、明るく伸び伸びと学校生活を送れる環境作りを手助けし、高校への橋渡しをする。 ②根幹である授業を通して生徒の学ぶ姿勢、学びに対する興味関心を喚起し、主体的に自ら学ぶ(学び続ける)姿勢を持った生徒を育てていく。 ③ムダのない授業計画の下、学習者の着実な学力の伸長を図るべく、魅力ある授業を通して基礎学力を充実させ、柔軟な思考力を育てる。 ④問題行動やいじめ事象の早期の発見をめざし、発生した場合は迅速に組織として対処していく。いじめ事象の問題性を継続的に生徒に正しく理解させると同時に、人権同和特設授業の充実を図り、道徳の授業と併せて、生徒の高い人権意識と規範意識を育てる。 ⑤生徒たちの潜在能力を十分に伸ばし、難関国立大学、国立医学部、有名私立大学等の現役合格を支援する。	B
	学年目標	1年生:学校生活に慣れ、基本的生活習慣を身に付けさせるとともに、集団行動を通して「個」の大切さを認識させる。授業を通して主体的に学ぶ姿勢を確立させる。 2年生:学校生活を通して互いに尊重し、それぞれの「個」の大切さを認識させ、主体的に行動する力を養成する。 3年生:中学最高学年として自覚ある行動と共に、仲間や後輩など他者を思いやる気持ちを持つ自律した人間性を育む。学習面においては、今まで以上に自主性や協調性を意識した雰囲気をつくり上げる。	
高校1年	生徒指導 生活指導	「服装・頭髪検査」を生活面の指導の最重要事項と位置づけ、高1担当者全員で、最後の一人が合格するまで丁寧に行なう。また、遅刻・欠席・早退等がなく、規律ある学校生活を送れるよう、生徒の意識を高め、基本的生活習慣が身に付くように指導する。	B
	学習指導 進学指導	「後悔しない文理選択」を実現させるため、学年ができる限りの進学情報を提供する。「総合的な学習の時間」を計画的に行い、進路の明確な目標や文理選択の意識を高めさせる。また、受験の基礎・基本となる高1学習内容を定着させるため、家庭での予習・復習の習慣を確立させる。 一方で、外部模試・外部進路説明会などを有効に利用し、生徒の進路決定に様々な働きかけを提供していく。	
高校2年	生徒指導・ 生活指導	①生徒との対話を増やす ・授業をはじめ、HR、課外活動等、学校生活のあらゆる場面において、積極的に生徒と対話し、良好な人間関係を築く。 ・教師から生徒に積極的に挨拶したり、声がけをする。 ・イジメ、からかい等の起こりにくいクラスの雰囲気作りに努める。 ②リーダーを育てる ・一方的な指示ではなく、生徒に意見を求める機会を増やす。 ・授業をはじめ、HR、課外活動等、学校生活のあらゆる場面において、様々な仕事を、徐々に生徒に任せてみる。 ③服装頭髪の規定に違反している生徒を放置しない ・学年内の意思統一を図り、規定に忠実に、対話を通して指導する。 ・違反常習者に関しては、情報を共有し、教員全体で指導に当たる。 ・校内で違反者を見かけたら、その場できちんと説明をして指導する。	B
	学習指導	①居眠りを放置しない ・魅力ある授業、学力のつく授業を目指す。 ・生徒をよく観察する。 ・時には教壇から離れ、机間指導を行う。 ・生徒との対話を適宜図りながら授業を進める。 ②学力を伸ばすための学習法を確立させる ・反復学習の効果・方法について丁寧に指導する。 ・要点をしぼった学習の効果・方法について丁寧に指導する。 ③苦手科目のある生徒を積極的に支援する ・生徒の成績不振を生徒の努力不足だけのせいせず、積極的に対話しながら、責任を持って、粘り強く指導する。 ・各担任と教科担任は、密接に連携し、生徒の学習状況を常に把握しておく。 ・追試受検者減に努めるのはもちろん、追試受験となっても、最後まで丁寧に指導する。 ④より効果的な朝補習を実施する ・生徒の実態に応じて学習内容を精選する。	
	進学指導	①個々人が希望する職業に就くために適した学部学科を選択できるように、年間を通じてキャリア意識を高める指導を展開する ・生徒自身の過去・現在・未来に関わる情報、及び進路に関わる情報を成長の記録(Jeekファイル)に蓄積し、きめ細かい進路指導に努める。	B
	特別活動	①事前・事後学習を含め、学びの多い修学旅行を実施する ・総合的な学習、HR、学年集会を効果的に活用し、修学旅行に対する生徒の意識を高める。 ・個人とグループでの学習を基盤に、生徒が課題を発見し、それを解決するノウハウを身につけられるように、手助けを行う。	A
高校3年	生徒指導・ 生活指導	目標 ◎「服装頭髪検査」を生活面の指導の最重要事項と位置づけ、高3担当全員で、最後の一人が合格するまで丁寧に行なう。 ○基本的生活習慣の確立 ・朝補習、授業開始からの遅刻・欠席指導をはじめとする時間の厳守。 ○学習環境の整備 ・生活環境の整備、教室の整備および美化に務めさせる。 ○問題行動の予防・防止 ・問題行動に関する諸注意を徹底する。 取り組み ◎高3所属の教員全員が生活指導担当者だという意識を持ち、生徒の服装・頭髪・言葉遣いや挨拶に至るまで気がかりな点があればその場で指導・注意をし、生徒の学園生活が充実したものとなるように導く。 ○チャイム着席の徹底に努める。授業担当者は早めに教室へ趣き、生徒が着席し、授業を待つことができる環境をつくる。また、必要に応じてSHRなどを利用し、学年全体で生徒へ呼びかける。 ○清掃を生徒任せにせず、必ず掃除監督として教員が清掃指導をし、好ましい生活環境作りに努める。 ○昼休みなどの校内巡視を徹底する。公共マナーや挨拶の励行について範を示し、指導する。人権学習を充実させ生徒間での人間関係が好ましいものとなるように努める。	B
	学習指導	目標 ◎大学受験に向けて学習スタイルをさらに深化させる。 ○自ら学ぶ姿勢の確立 ・家庭学習としての予習・復習の習慣・方法を指導し、授業に主体的に取り組ませる。 ○向上心の育成 ・小テスト、定期考査、模試に対する意識向上を図る。 取り組み ◎学級担任と教科担当者との連絡を取り合い、情報を共有し、生徒の学習指導に取り組む。 ○特に補習に関しては欠席や遅刻が目につく生徒には担任・担当者によるヒヤリング等を行い、生徒の意識が学習に向くように努める。 ○目標を達成した生徒や授業・補習への取り組みが良好な生徒をしっかりと評価する。	
	進学指導	目標 ◎「後悔しない大学選択・学部学科選択」「最後まであきらめない第1志望」実現に向けて学年ができる限りの進学情報を提供する。 ○進路の明確な目標を確立させ、意識を高めさせる。 ○あらゆる角度から生徒の進路決定に様々な働きかけを提供していく。 取り組み ◎学級担任・教科担任を中心に一人一人の生徒が進路相談しやすい雰囲気作りに努める。 ○学級担任は志望進路調査等の内容に基づいて面談などを行い、個別に進路指導の向上を図る。 ○外部模試・外部進路説明会を有効に活用し、HRや学年集会を利用し、生徒に進路情報を提供するように努める。	B

校務分掌			
企画	広報	1. 受験生やその保護者、中学校や塾などと信頼関係を築くことを通して、生徒募集活動を促進する。 2. 在校生の充実した生活を感じられる広報活動を展開する。	B
	進路指導	全学年間進路指導目標…「キャリア教育」を意識したキメ細かい進路指導の確立 全学年間目標に基づく各学年の目標 【中高一貫コース】 中学1年…様々な職業の存在を知る。 中学2年…様々な職業の存在を知って、資格、認定制度の存在を知る。 中学3年…職業と学部学科の関連を知り、高校2年からの文理コースを確認する。 高校1年…大学の学部学科と2年次からの文理コース選択を決定する。 高校2年…大学別試験形態を知る。 高校3年…大学別試験形態と大学受験校を決定する。 【高校コース】 高校1年…大学の学部学科から職業への系譜を辿り、2年次からの文理コースを選択する。 高校2年…個々人が希望する職業に就くために適した学部学科を調べる。 高校3年…大学別受験形態と大学受験校を決定する。	B
	国際交流	「多様な機会を創造して国際交流と理解を啓発する」	A
総務課	人権・同和教育	・人権・同和教育を通じて、同和問題をはじめとするあらゆる人権侵害に関する知的理解を深めさせ、人権感覚を養い、自他ともに尊重する態度や実践的な行動力を育成する。 ・人権意識の高揚と人権侵害・差別事象の防止のための日常的な対策活動を行う(いじめの一扫、学習権の保障、ハラスメント発言の防止など)。	B
	防災・危機管理	・防災・危機管理マニュアルの整備。 ・防災訓練を通じて、防災意識の向上を図る。	B
	保健衛生・特別支援教育	①保健室・スクールカウンセラーとの連携。 ②『保健だより』の充実、保健衛生の啓発。 ③特別支援定期相談会の充実。 ④サポートヒントシート・外部専門機関・不登校対策の研究・啓発。 ⑤「疾病等注意を要する事項」の調査・集計・運用の充実。	B
	情報環境整備	・コンピュータの校内ネットワークの整備。 ・ネットワーク運用に際しての規定の整備。 ・セキュリティ対策の促進。	B
教務課	年間目標	1. 「わかりやすい授業」「生徒を引きつける魅力ある授業」「規律ある授業」を目指して、教員の授業力向上を図る(授業第一主義)。 研究授業・公開授業、あるいは作問会議を充実させることを通じて授業力向上に向けた努力を絶やさない。 2. 授業を通して生徒に学ぶ喜びを発見させ、生徒の基礎力充実を図り、柔軟な思考力、学習に主体的に取り組む姿勢を育てる。さらに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、社会の規範となる態度を養い、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 3. 各教科、各学年と連携してバランスのとれた学習体制を整え、生徒一人ひとりの進路実現に向けての、指導体制の一層の強化を図る。	B B C
	総合学習	教科の枠を超えた横断的・総合的・探究的な学習を目指す。 (中)総合文化発表会を念頭に、①課題設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の学習活動を目指す。 学年テーマ:1年「自分を知る」「社会を知る」、2年「職業研究」、3年「修学旅行に向けての研修」 (高)全体目標:「進路意識の啓発・高揚」。多様な文脈の中で主体的・探究的な学びの姿勢を養成する。 学年テーマ:1年「自己と他者を見つめて」、2年「修学旅行研修」「進路意識の具体化」、3年「希望進路の実現に向けて」	(中学) A (高校) A
生徒課	年度目標	1. 中学生・高校生としての常識と規範意識を持ち、コミュニケーション能力の高い生徒を育成する。 2. 中学・高校ともに男女共学を踏まえた学校生活の安定を図る。 3. 中学・高校ともに生徒会活動の自主的活動を促し、学校行事の成功を期す。 4. 部活動の活性化と中高一体の指導体制安定化。	B
	具体的課題	1. 生活指導(頭髪・服装)、交通指導の徹底 2. 体育祭・文化祭の中高一体化の深化 3. クラブ活動の活性化と中高部活動指導体制の整備 4. 通学バッグ(A・B・C)の運用に関するルール周知徹底 5. 「いじめ」未然防止を目指す(学校生活アンケート実施) 6. 盗難防止の徹底 7. 校内美化の推進・マナーの徹底	B
	重点的な取り組み	1. 学校に校則をはじめとしたルールが何故あるのか、生活指導上のルールの必要性や意義について生徒に語りかけ、生徒の理解を促す。 2. 生徒一人一人に向き合い、優しさと厳しさ、熱意をもって対応すること。 3. 服装や頭髪のだらしない生徒、態度に問題のある生徒についてはその場で直ちに指導する。現場主義の徹底。 4. 生徒会活動の組織的な指導に基づく、自主的な企画・運営を図る。特に体育祭・文化祭。 5. 部活動の目標設定。	B